そすいの郷

第３３１号
２０２２年（令和４年）
２月２０日 編集・発行
西地区コミュニティ運営委員会
広報編集部会

（2/11三区町にて撮影した高原山（右は前黒山）前日に降った雪で粧っていました。）

スマートフォン活用講座（市民大学連携講座）

スマートフォン初心者を対象とした活用講座が市民大学連携講座として西公民館にて開催され、西地区からの参加者もありました。ドコモショップ西那須野店の方が講師となり、第１回目は開講式の後、「スマートフォンをあんしん・安全に使うために」と題して、スマホを使う時に気をつけたいルールとマナー、料金や個人情報を守るための対処法、メール詐欺などに遭わないための注意点、トラブル時の相談先などの説明の後、質疑応答ということで、普段から気になっているスマホの操作方法などを教えて貰いました。

スマートフォン活用講座は1月18日、1月25日、2月1日の火曜日、10時から11時30分までの計３回開催され、２回目の「はじめてのスマートフォン」では、スマホの操作方法などの説明でした。

その中で「通常、電源は入れたままで問題はありませんが、本体をより良い状態に保つために定期的に再起動しましょう」との説明があり、みんなで「再起動」しました。

【電源ボタンを長押しします　⇒ 画面の「再起動」をタップします　⇒　再起動されます】

３回目の「スマートフォンでインターネットを使おう」では、Wi-Fiを使うための設定方法（西公民館にはWi-Fiが入っています）を教えて貰い、実際に知りたい情報などを検索してみました。音声での検索の方法なども行いました。２回目３回目とも、質疑応答の時間があり、受講者からは様々な質問があり、それぞれのスキルアップに繋がったことでしょう。なお、講座修了者には「修了証」が交付されました。（今回の受講者の多くは「那須塩原市みるメール」を登録済でしたが、登録手順や登録情報変更の方法等についての説明もありました。）

西コミ広報誌「そすいの郷」は、那須塩原市のホームページ内「西公民館」のページに「カラー版」が掲載してありますので、どうぞご覧ください。

そすいの郷「カラー版」をスマホで見てみました。

那須塩原市のホームページを開き、⇒組織から探す ⇒生涯学習課 ⇒公民館 ⇒西公民館

西公民館のページから ⇒西地区コニュニティ運営委員会情報 ⇒コミュニティ誌「そすいの郷」 ⇒1月20日号

地域の話題・トピックス

西地区の行事や出来事、身近な話題などの情報がありましたら、広報編集部会員または西公民館（☎37-1677）までお寄せ下さい。また、西地区で活動していること、趣味のこと、自慢話や思い出話、地域の昔のことなど、「そすいの郷」への投稿も募集しています。（できれば写真も一緒にお願いします。）

投 稿

野鳥観察（チャレンジ☆キッズ）

１月１５日（土）西公民館主催の少年教室（チャレンジ☆キッズ）が行われました。少年教室は西小学校の児童を対象に、卓球や陶芸に挑戦したり、地域の方の協力も得て宝箱（木工教室）や写真を使った年賀状づくりなど、学校の授業では体験できない活動を行っています。

この日は、野鳥観察「どんな鳥がいるのかな？」ということで、講師を務めましたので、その様子を報告します。

１０時開会。参加者は１～４年生の親子７組。プロジェクターも使いながら、「冬に見られるのは、一年中いる鳥たち（留鳥）に加え、北の方から渡ってきた鳥たち（冬鳥）」などの説明をし、子どもたちが知っている鳥を留鳥と冬鳥に分類、説明しました。

今日の予定などを話した後、双眼鏡を配り、注意事項や使い方を説明。早速、野鳥観察に出発。公民館前の手押し信号から雲照寺の墓地に向かうところでキジバト、ヒヨドリの飛ぶ姿が見られ、その後、モズが現れ、木から木に飛び移りましたが、佇む姿をみんなで良く観察することができました。

田んぼの畦を通り、雲照寺の境内へ。暫く静かにしていると、木陰にシジュカラが、木の幹にはコゲラ（日本で一番小さなキツツキ）が姿を現しました。子ども達は双眼鏡で小鳥を見て、新たな発見をしたようですが、小さな子には、双眼鏡の扱いは難しかったようです。

野鳥観察は１時間程度と短時間でしたが、注意して見ると、身近に野鳥も結構います。子どもたちが今回の野鳥観察で、野鳥など自然に興味を持つ「小さなきっかけ」となればと思いました。

（日本野鳥の会会員　肥塚喜弘・澄江）

烏ケ森の野鳥たち⑪　ジョウビタキ

上がメス・右はオス

スズメと同じ位の大きさの冬鳥で、住宅地でも良く見かけます。オスは頭上が白く目の周りは黒、お腹はオレンジ色です。メスは頭が淡褐色でオスとは見た目が異なります。　漢字では尉鶲（ジョウビタキ）とも書き、「尉」は老人の能面のこと。オスの銀色の頭を老人の白髪の頭に見立てて名付けられたようです。

縄張り意識が強く、1羽で縄張り内を飛び回り、「ヒッ、キッ」と鳴いたり「カッカッ」という音を出したりします。この音が火打ち石を叩く音に聞こえたことから「火焚き」とも呼ばれています。

翼にある白い斑点をキモノの紋に見たてて、モンツキドリという地方もあります。

編集後記

新型コロナの影響で、令和２・３年度とも様々な行事が中止となりました。西コミ広報誌「そすいの郷」は、西地区コミュニティ運営委員会が実施する事業を中心に記事を構成していますが、数少ない事業などの取材記事やお知らせ、投稿記事などでの誌面構成が続いています。
オミクロン株による第６波の影響やその後の状況は見通せませんが、一日も早く、普段の生活が戻ってきて欲しいものです。　(Y.H)